

親鴨だより

2006年 5月号
第224号



若葉の映える新緑の季節、会員並びにご家族の皆様は如何お過ごしでしょうか。親鴨会行事も4月の総会で決定され、いよいよ本格的に実施に向けて期待が膨らんでまいります。期待と言えば我が国の社会情勢もようやく経済の前途に明るさが戻りつつあることでしょう。更に3月21日にはプロ野球日本代表がWBC大会で優勝し世界の頂点に立ったことは誠に痛快な出来事でした。

しかし災害、事故、事件などは相変わらず後を絶たず、とりわけマンション耐震強度偽装事件に至っては、日本社会で広がりつつある責任感の欠如が、この国の形なのかと考えさせられます。物で栄えて心が滅びることのないようお願いいたします。

さて、既にご承知の通り、遂にIBM野洲事業所もその看板を降ろす時がやってまいりました。振り返れば、我が国経済がバブル崩壊とともに1993年頃から野洲事業所内でも子会社、関連会社など10数社に分割するという流れになったものの、当時は未だ敷地内の建物、土地その他の資産はIBMでありました。しかし、これらも昨年8月4日付にて京セラに資産譲渡され、IBMの看板が降ろされたわけであります。又関西地区の厚生施設として、その恩恵に浴し大いに賑わった関西グランドも昨年12月末で閉鎖となりました。

改めて、ここに34年間野洲市に根を降ろし、社会とともに発展を続け栄華を極め、威容を誇ったIBM野洲事業所の足跡を思いつくままに辿って心に刻んでおきたいと思います。1971年8月第一期工事が完成、1972年10月システム/370モデル125の生産開始。これにより野洲工場がカード、ボードの製造に始まり最終的なシステムの組立に至る所謂一貫生産体制の先駆けとなりました。以降1975年から1989年にかけて実に五期に亘って増築工事を行い、生産管理棟、新工場棟、動力棟、ハイテク工場棟等を増築、創業時15年目にして当初の4倍以上に拡張した時代が、今は懐かしく思い出されます。

現在、IBMとは直接の結びつけるものではないけれど野洲市に根を降ろした我々にとって明るい話題もありました。第84回全国高校サッカー選手権大会で野洲高校が全国制覇を達成し、結構全国的に名が知られるようになりました。又IBMの面影を残す親鴨会野洲支部はどっこい健在であります。これからも不滅の精神で会員の皆様の再会の場を提供すべく気合を入れていきますので、更なるご支援ご協力を宜しく願います。親鴨会行事を通して皆様との再会を楽しみにしています。

野洲支部:柴原 喬